

製品名: Frizzled-4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11143**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	FZD4
別名	FZD4; Frizzled-4; Fz-4; hFz4; FzE4; CD antigen CD344
遺伝子 ID	8322.0
SwissProt ID	Q9ULV1
免疫原	抗血清はヒト FZD4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

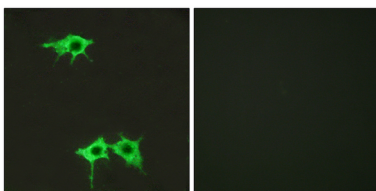
frizzled クラス受容体 4(FZD4) Homo sapiens この遺伝子は frizzled 遺伝子ファミリーのメンバーです。このファミリーのメンバーは、Wingless 型 MMTV 統合部位シグナル伝達タンパク質ファミリーの受容体である 7つの膜貫通ドメインタンパク質をコードして

います。ほとんどの frizzled 受容体は、 β -カテニン標準シグナル伝達経路に結合しています。このタンパク質は、Wingless 型 MMTV 統合部位シグナル伝達経路の正の調節因子としての役割を果たしている可能性があります。イントロン配列を保持し、より短いアイソフォームをコードする転写バリエーションが記載されていますが、その発現は他の実験的証拠によってサポートされていません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：FZD4 の欠陥は、滲出性硝子体網膜症 1 型 (EVR1) の原因です [MIM: 133780]。常染色体優性家族性滲出性硝子体網膜症 (FEVR) またはクリスウィック・シェーペンス症候群としても知られています。EVR1 は網膜血管系の疾患であり、末梢毛細血管の成長が突然停止し、末梢網膜が無血管状態になることを特徴とします。この状態は、初期の無血管性障害による低酸素状態によって引き起こされると考えられており、代償性の網膜新生血管形成につながる可能性があります。新生血管は漏出や破裂を起こしやすく、滲出液や出血を引き起こし、瘢痕形成、網膜剥離、失明につながります。臨床症状は、同一家系内であっても大きく異なる場合があります。軽症の患者は無症状で、疾患に関連する唯一の異常は、極側頭周辺部の無血管網膜弓状部である。、domain:Lys-Thr-X-X-X-Trp モチーフは、Wnt/ β -カテニンシグナル伝達経路の活性化に関与している。、domain:FZ ドメインは、Wnt リガンドとの結合に関与している。、function:Wnt タンパク質の受容体。frizzled 受容体のほとんどは、 β -カテニンの標準的なシグナル伝達経路に結合しており、disheveled タンパク質の活性化、GSK-3 キナーゼの阻害、 β -カテニンの核内蓄積、および Wnt 標的遺伝子の活性化につながる。PKC とカルシウムフラックスが関与する 2 番目のシグナル伝達経路が一部のファミリーメンバーで確認されているが、PKC は Wnt を介した GSK-3 キナーゼの不活性化に必要であると思われるため、それが別の経路を表すのか、または標準的な経路に統合できるのかはまだ明らかではない。どちらの経路も G タンパク質との相互作用に関与していると考えられる。組織形態形成時および / または分化組織において、極性情報の伝達および細胞間伝達に関与している可能性がある。網膜血管新生において重要な役割を果たす。、類似性：G タンパク質共役受容体 Fz/Smo ファミリーに属する。、類似性：1 つの FZ (frizzled) ドメインを含む。、サブユニット：NDP に結合し、MAGI3 と相互作用する。、組織特異性：ほぼ普遍的に存在する。成人の心臓、骨格筋、卵巣、胎児の腎臓で主に発現する。成人の肝臓、腎臓、膵臓、脾臓、胎児の肺では中程度、胎盤、成人の肺、前立腺、精巣、結腸、胎児の脳、肝臓では少量発現する。、

研究分野

WNT、WNT-T 細胞、メラニン生成、がんの経路、大腸がん、基底細胞がん

画像データ



FZD4 抗体を用いた LOVO 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。